

# ・ ・ ・ 林業と地方創生を考える ・ ・ ・ オーストリア林業フォーラム



▲林業は子供達の憧れの職業



▲視認性に優れ機能的な作業服



▲巨大製材所の原木選別機



▲地域熱供給チップボイラー



▲どの家にも煙突がある暮らし



▲機能的でおしゃれな薪ストーブ

再生可能な資源“木材”を利用し、林業・木材産業・バイオマス利用の発展により、豊かな地域づくりを進めているオーストリアの取組を学び、森と木を活かした地方創生へ向けた大会宣言をします。



## プログラム

開会 (14:00~14:10)

開会挨拶	鳥取県林業協会会長	森下洋一
ビデオメッセージ	鳥取県知事	平井伸治
歓迎挨拶	三朝町長	吉田秀光

基調講演 (14:10~14:50)

「オーストリアの林業と地方創生」  
在オーストリア日本国大使館  
特命全権大使 竹歳 誠 氏

パネルディスカッション (15:00~15:50)

「始めよう 森と木を活かした地方創生」

コメンテータ	在オーストリア日本国大使	竹歳 誠 氏
コーディネータ	鳥取大学農学部教授	山本福壽 氏
パネリスト	株式会社皐月屋・青年林業士	大谷訓大 氏
〃	鳥取県中部森林組合業務部長	柘井弘文 氏
〃	日南町森林組合販売リーダー	木村実次 氏

## 平成27年

# 7月3日 (金)

# 14時~16時

## 三朝町総合文化ホール (東伯郡三朝町大瀬999-2)

大会宣言 (15:50~16:00)

鳥取県中部森林組合	金山俊彦 氏
〃	岸田典子 氏

主 催	鳥取県・鳥取県林業協会
共 催	鳥取県中部森林組合
問い合わせ先	鳥取県 林政企画課 電話0857-26-7683

# 基調講演

## 「オーストリアの林業と地方創生」

在オーストリア日本国大使館  
特命全権大使 竹歳 誠 氏



### <プロフィール>

2013年 駐オーストリア特命全権大使  
(兼コソボ、マケドニア旧ユーゴスラビア共和国駐節)

2013年 東京大学公共政策大学院客員教授  
2013年 三井住友海上火災保険株式会社顧問

2011年 内閣官房副長官  
2010年 国土交通省事務次官  
2007年 同国土交通審議官(社会資本整備・国土政策担当)  
2006年 同大臣官房長  
2005年 同総合政策局長  
2003年 同都市・地域整備局長  
1972年 建設省入省

2010年 OECD市長及び閣僚による都市会議 日本政府代表  
2009年 OECD地域開発政策委員会閣僚級会合 日本政府代表

1977年 オックスフォード大学 経済学修士  
1972年 東京大学法学部 法学士

## オーストリア林業の概要 <現状>

### 1. 森林面積

- 森林面積は約4万km<sup>2</sup>で国土の48%（日本は67%）
- 国土面積は約8万4,000km<sup>2</sup>で北海道の面積に相当
- 82%が経済林、13%が保護林
- 82%が民有林、18%が国・公有林
- 林業家の所有林面積は5ha未満が16%、5~50haが70%、50ha以上が14%
- 毎年の伐採量は生育量の85%程度



### 2. 木の種類

- 針葉樹が72%、うち大半がトウヒ（全体の60%）
- 広葉樹が28%、うち多くがブナ（全体の10%）

1

### 3. 経済効果

- GDP（約3,131億ユーロ）に占める林業（約12億ユーロ）の割合は0.4%
- GDPに占める割合は低いが、関連産業を含めると、**就業者人口の7%**に相当する約30万人が就業
- 木材・木材製品の貿易収支は**伝統的に黒字**で、観光業と共に国際収支に貢献
- 州別では比較的標高が低い東部のシュタイヤマルク州、ニーダーエステライヒ州、オーバーエステライヒ州、ケルンテン州が最も貢献
- 内訳は産業用針葉樹材が60%、燃料用木材が18%、産業用広葉樹材が3%



2

## オーストリア林業の概要 <政策>

### 1. 政府は森林の様々な効果を重要視

- 景観維持及び保養効果
- 地域振興
- 二酸化炭素削減効果
- 土砂崩れ・雪崩などの自然災害防止効果
- 湧水の浄水効果
- 環境にやさしいエネルギー源

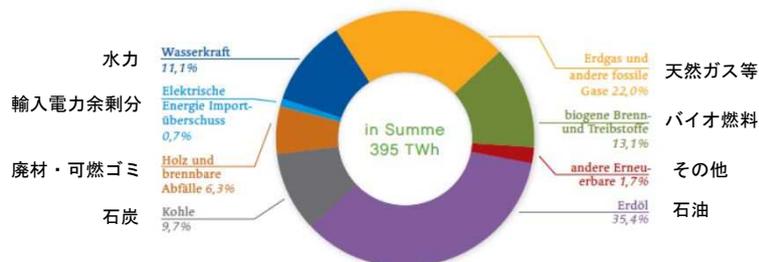


3

### 2. 再生可能エネルギー促進

#### (1) 背景

- オーストリアでは原発が法律で禁止されており、政府は代替手段として再生可能エネルギーを促進
- EUはオーストリアに対して、エネルギー消費に占める再生可能エネルギーの割合を2020年までに34%とする国別目標を設定（EU全体では20%と設定）



Datenquelle: Statistik Austria (2013)

4

## (2) 現状

- オーストリアはエネルギー消費に占める再生可能エネルギーの割合で2012年に32.3%（電力消費に占める割合は65.3%）を達成
- 再生可能エネルギーの内訳では水力（38.0%）が最大であるが、近年、木質バイオマス（木質チップ、木質ペレット、薪、ブリケット等）（32.8%）の増加が顕著
- オーストリアにおける木材の生産量は過去10年間に48%増加しているが、このうち、木質バイオマス（木質チップ、木質ペレット、薪、ブリケット等）の生産量は98%増加



5

## (3) 課題

- 発電量の不安定性  
水力発電は降水量に左右されるため、降水量が少ない年は電力輸入が増加（オーストリアは電力の5%前後を輸入に依存）
- 補助金の必要性  
木質バイオマスによるエネルギー供給は比較的高い初期投資が必要な上、木材市場価格に左右されることからコスト面で不安があり補助金が必要となる
- 木材の輸入増加  
木質バイオマスの普及に伴い、木材輸入が増加し、2013年に木材・木材製品の貿易収支は黒字になっているものの、木材だけを見ると若干の赤字



6

# パネルディスカッション

## 「始めよう森と木を活かした地方創生」

### <出演者>

#### ●コメンテーター

在オーストリア日本国大使館 特命全権大使

**竹歳 誠(たけとし まこと) 氏**

#### ●コーディネーター

鳥取大学農学部教授

**山本 福壽(やまもと ふくじゅ) 氏**

専門は造林学。特に樹木の成長や生理のメカニズムとこれらに対する環境因子の影響に関するテーマを重視した研究を行っている。大学で教鞭を執られる傍ら、鳥取県森林審議会会長も務める。

#### ●パネリスト

さつきや  
株式会社皐月屋、鳥取県青年林業士

**大谷 訓大(おおたに くにひろ) 氏**

約40haの自家所有山林の手入れを行う傍ら、地域の森林施業を請け負う(株)皐月屋を経営。伝統林業地である智頭町の若手自伐林家。

鳥取県中部森林組合業務部長

**柘井 弘文(ますい ひろふみ) 氏**

森林の集約化や造林・間伐の実施など、森林組合の中核部門の責任者として地域の森林整備の推進者として活躍。

日南町森林組合販売リーダー

**木村 実次(きむら みつぐ) 氏**

森林組合製材所での加工・販売の経験を活かして、(株)オロチへの素材集荷・販売の責任者として年間3万㎡を扱い地域の森林整備に貢献。

# 森と木を活かした地方創生の将来像 「先進林業国オーストリア」

オーストリアは、森林面積が日本の15%であるが、年間素材生産量(2011年)は1,870万m<sup>3</sup>で日本の1,845万m<sup>3</sup>を上回っている。オーストリアと鳥取県のちがいを比較しました。

項目		<鳥取県>	<先進林業国オーストリア>
川上	生長量に対する伐採率	24% 生長量を十分利用し切れていない	85% 地域資源を最大限に持続的利用
	自伐林家	非常に少ない (跡継ぎが都会へ流出)	 生産量の44% 農家林家がトラクターで集材
	作業システムと木材運搬	 生産コスト 7,700円/m <sup>3</sup> 車両系機械  2トラックによる運搬	 生産コスト 4,200円/m <sup>3</sup> 大型架線系機械(タワーヤーダ)  林業現場からトレーラーで直送
	林業労働災害	100万m <sup>3</sup> 当たりの死亡者2人/年(日本)	100万m <sup>3</sup> 当たりの死亡者1人/年
川下	製材所の規模	 鳥取県の製材所は2万m <sup>3</sup> /年規模が最大	 製材所、集成材工場、ペレット工場、バイオマス発電所が一箇所に集中し、徹底的に木材をカスケード利用 50~100万m <sup>3</sup> /年の規模が複数存在
	地域づくり	バイオマス利用	 境港の日新バイオマス発電所が稼働開始 西部総合事務所のチップボイラー ペレットストーブが県事務所などで導入
		ほとんどの家庭が化石燃料に依存	 薪・ペレットストーブの煙突がある住宅  チップボイラーから各家庭へ温水供給
林業に対する職業観		3K (キツイ、キタナイ、キケン)	3K「かっこよくて、健康的で、高収入」  国民へ資源を安定供給する基幹産業 林業は若者の憧れの職業
林業と雇用	就業人口の0.3%(林業)	就業人口の7%(林業・木材産業) 田舎の貴重な就職先	

# 大会宣言

本日、歴史と自然がはぐくむ日本遺産のある町、ここ三朝町において、「オーストリア林業フォーラム」が開催されました。

オーストリアにおける、林業を通じた持続的で豊かな地域づくりは、本県の林業や山村地域の目指すべき将来像といえます。

今日のフォーラムは、森と木を活かす人々の知恵と工夫、そして力で、山村地域の暮らしを豊かにできることに気づき、林業の成長産業化が地方創生の切り札であることを力強く発信できた大会でした。

山村地域に住む私達自身が、林業の大いなる可能性を信じ、元気な地域づくりを目指す地方創生の旗をかかげ、持続的な発展につながる森と共に歩む活動を展開していくことを、ここに宣言します。

始めよう、森と木を活かした地方創生！

平成27年7月3日

オーストリア林業フォーラム

鳥取県中部森林組合 金山 俊彦  
岸田 典子